

「ツチグリの実験」

「ツチグリ」には顕花植物の種類もありますが、このツチグリは子実体を持つ菌類、つまりキノコです。キノコというと柄とカサを持つ形を想像しますが、ツチグリの仲間の腹菌類(ふくきんるい)は非常に変わった形をしています。絵でも判るとおり、ツチグリはまるでミカンの皮をむいたような形状です。



「ツチグリ」 *Astraeus sp*

学名の *Astraeus* は「星形の」という意味です。若い子実体は食用にもなります。

中心の丸い部分の中に「グレバ」と呼ばれる古綿のような組織があり、そこに粉状の胞子があります。若い個体はまさに堅い栗のようですが、次第に星状に開き、絵のようになります。このツチグリ、雨の日は開き、晴れて乾燥した日は閉じます。閉じたツチグリを屋内に持ち込み、皿に水を張って入れておくと、1時間ほどで完全に開きます。乾かすと閉じるので、何度でも実験できます。夏～秋に発生しますが、腐らないで残るので、晩秋や翌年の春でもごく普通に見つけることができます。是非、教室で実験してみてください。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)